



理論と技術の体系的なカリキュラムで 実践的な港湾・貿易業務を学ぶ

港湾職業能力開発短期大学校神戸校 港湾流通科



貿易に必要な書類の実物を
作成しながら実践的に学んでいます

懂れていた貿易業務は、思ったよりも記入書類の種類が多く、驚きました。就職後に役立つ知識を少しでも多く身につけたいです。(大塚さん)

貿易業務に必要な資格取得のための 授業もあります

パソコンを使った授業も多いです。2年次の「港湾情報処理実習」という授業では、企業でもよく用いられるソフトウェアを使って実践形式で学び、資格取得もできます。(長谷川さん)



1年間の研究活動の成果を校外に向けて広く発信します

2年次の「総合制作実習」は、仲間と協力して研究を進めます。1人で取り組むよりも、アイデアや知識が広がりやすいことを実感しています。(大塚さん)



港湾業務に特化した 実践技術者を育成

日本における貿易量の99%以上は海運であり、港湾には貿易事務や通関業務、倉庫管理業務など、多様な仕事がある。港湾職業能力開発短期大学校は、港湾業務の実践技術者の育成を目的とする、厚生労働省所管の2年課程の短期大学校だ。神戸校と横浜校があり、神戸校では、港湾流通・港湾技術・港湾ロジスティクスの3科を設置し、地域の実情に合った教育を展開する。

港湾流通科の定員は20名で、学生たちは国際物流のルールや輸出入手続きなどを学び、貿易業務のスペシャリストを目指す。2年生の大塚



港湾短大神戸校
港湾流通科2年
長谷川裕菜
はせがわ・ゆうな
兵庫県立加古川南高校卒業。神戸港の企業に貿易事務職としての就職を志望。



港湾短大神戸校
港湾流通科2年
大塚真隨
おおつか・なおゆき
徳島県立小松島高校卒業。貿易・物流企業に事務職としての就職を志望。

真隨^{まのり}さんは、「高校1年生の時に先生から貿易事務の仕事についての話を聞いて興味を持ち、関連する勉強ができる大学を探しました。この学校は、神戸ポートアイランドにあり、港の近くで貿易の業務が学べる点にひかれました」と話す。

IT化の進む現場の実情を 反映した授業で学ぶ

カリキュラムは、業務に必要な知識・技能の習得、貿易関連の資格取得に向け体系的に構築されている。現場の実情が教育内容に反映されているため、即戦力として活躍できる力が身につけられるのが特徴だ。

例えば、港湾物流業界では現在、生産性向上や効率化に向けて自動化・機械化・IT化が急速に進み、データ処理能力の高い人材が求められている。そこで、1年次には表計算ソフトの実践演習を、2年次には貿易業務に必要なデータベースのプログラミングを学ぶようになっている。

「ほぼ初心者状態から始めて、1年生でマイクロソフトオフィススペシャリスト（エクセル）の資格を取得しました。その知識をベースに、2年生では業務を想定したデー

タ処理を学んでいます」（大塚さん）

同様に、物流センターなどでも機械化が進んでいるため、1年次の「物流機械実習」ではロボットを操作するプログラミングの演習を行う。

書類作成などもシステム化が進んでいるが、授業では最初はあえて手書きでの作成方法を学び、本質的な理解を促すことを大切にしている。例えば、2年次の「港湾情報処理実習」は、輸出入における書類や貨物の流れを理解し、必要な手続きについての知識・技能を身につける科目だ。2年生の長谷川裕菜さんは次のように述べる。

「手続きや書類の種類は多岐にわたり、英語で記入するケースも多くあります。まず手書きでしっかりと作成できるようにすることを目指し、一つひとつの知識を確認、理解しながら学んでいます」

そうした業務能力の習得と並行し、港湾物流の企業や現場を訪れ、将来へのイメージを膨らませる。

「企業訪問では、授業内容と企業での業務の様子が結びつき、貿易業務をより具体的に理解できました。一方で、『もっと書類作成の勉強を頑張ろう』などと、目標を再確認で

きました」（長谷川さん）

1年間を通じた研究で 問題発見・解決能力も育む

これからの港湾物流の現場を支える人材に求められる問題発見・解決能力の育成も行う。2年次の1年間を通して取り組む「総合制作実習」では、港湾物流に特化した研究テーマが設定され、ゼミ形式で探究的な活動を行う。4月に研究テーマを決定し、以後は学生主体で調査・研究に取り組み、その成果を2月の最終発表会で披露する。長谷川さんは、物資の運搬など、物流へのドローンの活用方法について研究しており、大塚さんは、フェアトレード（*1）について調査を進めている。

「昨年、国内のフェアトレードに関する先輩の発表を聞いて、世界の貧困問題にアプローチする意義深い取り組みだと思い、興味を持ちました。今後、海外企業の取り組みの調査を検討しています」（大塚さん）

2人とも卒業後は港湾関連企業への就職を目指し、現在は実践的な港湾や貿易の業務の習得や研究を進めるとともに、就職活動にも取り組む充実した日々を送っている。

大学の思い

3つのスキルを融合させて 高度な業務能力を育む



港湾短大神戸校
校長
松原元一
まつばら げんいち

本校は、1998年に短期大学校となり、今年で20年目を迎えます。港湾物流業界の期待に応え、新しい時代を担う高度な知識と技能を兼ね備えた実践技術者を数多く送り出しています。

本校が育てたい学生の資質・能力は、「テクニカルスキル」「ヒューマンスキル」「コンセプトチュアルスキル」の3つです。テクニカルスキルは、港湾業務の遂行に求められる知識・技能であり、これらは実践重視を徹底したカリキュラムを通して習得します。ヒューマンスキルは、コミュニケーションを通して良好な人間関係を構築する力であり、円滑に業務を進めるために欠かせません。本校では、ヒューマンスキルを少数人数のグループ演習などを通して身につけていきます。そして、物事の本質を把握し、問題発見・解決につながるために必要なコンセプトチュアルスキルは、主に「総合制作実習」を通して育成します。

これらの3つのスキルが高いレベルで融合して初めて、港湾業務の実践技術者として十分な力が発揮されると考えています。

*1 fair trade、公平貿易。発展途上国の生産物を、その生産者の生活を向上させるため、適正な価格で生産者から直接購入し、労働条件や環境保護などにも配慮して行われる貿易のしくみ。